

第193回一関市教育委員会定例会 会議録

1 開催日時

開会 令和元年5月21日（火）午後1時30分

閉会 令和元年5月21日（火）午後2時58分

2 会議の場所

一関市役所議会第2委員会室

3 出席者

教育長 小 菅 正 晴

委員 千 葉 和 夫

委員 小野寺 眞 澄

委員 佐 藤 一 伯

委員 伊 藤 一 志

4 会議に出席した関係者及び職員

教育部長	千 葉 敏 紀
一関図書館長	千 葉 秀 一
教育部次長兼学校教育課長	瀧野澤 徹
教育総務課長	中 田 善 久
文化財課長補佐兼骨寺荘園室副主幹	坂 本 光 司
教育総務課長補佐兼庶務係長	千 葉 由 紀（記録）

5 議題及び議決事項

議案第14号 一関市中学生の社会体験学習事業実行委員会設置要綱の制定について
(可決)

6 報 告

- (1) 財産の管理に係る損害賠償に関する専決処分の報告について
- (2) 行事報告及び6月行事予定について

7 その他

- (1) 令和元年度学校教育行政の重点について（学力向上）
- (2) 第9回総合教育会議の日程について

8 会議の議事

○教育長 定足数に達しておりますので、ただいまから第193回一関市教育委員会定例会を始めます。

それでは、2番の議事に入ります。

議案第14号 一関市中学生の社会体験学習事業実行委員会設置要綱の制定について

○教育長 議事日程第1、議案第14号、一関市中学生の社会体験学習事業実行委員会設置要綱の制定につきまして、事務局から説明をお願いします。

教育部長。

○教育部長 それでは、お手元の資料の3ページをお開きいただきたいと思います。

議案第14号、一関市中学生の社会体験学習事業実行委員会設置要綱の制定について、一関市中学生の社会体験学習事業実行委員会設置要綱を次のとおり制定する。

こちらについては、一関中学生の社会体験学習事業に関し必要な事項を協議するため、一関市中学生の社会体験学習事業実行委員会というものを設置しようとするものでございます。

これまでも、実行委員会はやっておりますけれども、改めて要綱として規定をし、設置するという内容でございます。

これが提出する理由でございます。

なお、詳細の内容につきましては、学校教育課長から説明をいたします。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 では、この事業の概要について説明いたします。

（説明）

○教育長 それでは、現在やっている内容について、改めて要綱を設置して、根拠をはっきりさせてから臨むということが、議案の理由のようであります。

これにつきまして、何かご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

○教育長 はい、千葉委員。

○千葉委員 今まで実行してきた実行委員会、それに新たに要綱というのを設定したということで、それ自体、当然あるべきことなんですが、何か、特に最近不都合があつて、やらなければいけないという事態でもあつたんでしょうか。

○教育長 学校教育課長。

○**学校教育課長** 不都合が特にあったということではございませんが、来年度に5日間で実施するというので、更に整えてスタートしたいということでした。

よろしく願いいたします。

○**教育長** 今年、5日間での実施が多分ちょっと増えたはずで、7から9校になったのではないですか。

○**学校教育課長** はい、増えておりますね、9校。

○**千葉委員** そうすると、32年度からは全ての中学校で実施するという予定になっているわけですね。

○**教育長** はい、学校教育課長。

○**学校教育課長** はい、32年度から実施ということで、昨年度からも、各学校に呼びかけをいたしまして進めているところでございます。

例えば、藤沢中学校に関しましては、3日間でしたが、今年度は1日増やして4日間、そして、来年度は5日間というふうに段階的に増やす学校もございます。

そういったところで準備の年というふうにこちらで捉えておりました。

○**千葉委員** 再確認ですが、全ての学校が全部で何校ですか。

来年度から、全ての学校が5日間実施するということになるわけですね。

○**学校教育課長** 市内16校ございまして、16校が5日間ということになります。

32年度から全ての学校でということでございます。

○**千葉委員** わかりました。

○**教育長** はい、伊藤委員。

○**伊藤委員** 私が県職員の時に、受け入れる事業者が、学校が5日間を希望してお願いしても、5日は無理だと、3日しか受け入れられないというように言われた。

例えば、私は旧東磐井地区を担当して事業所回りをしたのですが、そういう状況だったんです。

それが、5日間だということだと事業主が受け入れを理解しているということでしょうか。これがまず1点。

それから、私がいたときに学校としてちょっと大変だったのは、子どもが希望してもその希望する職種がなかなかなく、希望しないところに割り振ると、目的が勤労感を子どもたちに身に付けさせたいと思っても、自分の希望どおりではないので、体験させるというメリットはあるんですが、本当に希望するような職種にしてあげないと、意欲に欠けてしまような場面が、当時の課題としてありました。

こういう点は、どうでしょうか。

現場でうまく解決しているのでしょうか。

そういうものに対する、例えば、実行委員会で何かこういうところで関与して、そういうものを先ほどのように、5日間の、例えば、受け入れ体制なんかは働きかけをするというようなこともあるのでしょうか。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 まず、地域事情でございますけれども、ご指摘のとおり、5日間は実際無理かもしれないというふうに答えるところが多い地域がございます。

そこで、市としましては、連続する4日間プラス、例えば、第1産業の職業を学年で、そこに行って体験をすとか、3日間、地域の事業所に行って、残りの2日間を別の体験をすとか、そういったものも可としておりますので、地域事情によって難しいところは、そういうように学校に組んでもらうというふうに指導しております。

2つ目のご指摘でございますが、この事業が始まった当初からご指摘だったり、課題がございまして、悩ましいところございました。

そこで、我々が説明してきたところは、なぜ職場体験学習ではなくて、社会体験学習かということ、いわゆる勤労体験の意味合いだけではなく、世の中を体験するというか、そういう意味合いも強いものだということの説明をまいりました。

学校では、自分の希望職種ではないものに行く場合は、修学旅行で体験学習を組んだりというような工夫をされている、そういうところもあるようでございます。

実行委員会のほうでは、もう希望を取らないで、学校で割り当てして、自分の社会体験なのだから、そういうふうなやり方をとってもいいのではないかというご意見もちょうだいしております。

実際それをやれるかどうかは、また議論が必要なところでありますが、案の一つとしてはちょうだいしておりました。

○教育長 よろしいですか。

○教育長 はい、佐藤委員。

○佐藤委員 私も、子どもに社会体験学習の感想を聞いたことがありまして、やはり、実際の体験だけでなく、その後の、先ほどシンポジウムのお話がありましたけれども、それに近い形で、校内で報告会のようなものを作って、それがそこで例えばパワーポイントを使ったり、報告冊子を作ったり、そういったことも含めて非常に良くて、なかなかそういう経験ができない、得がたい経験ができるプログラムだったという話で、修学旅行にまさる劣らない、そういった意味では、総合的な学習の場だったというお話を聞かさせていただきました。

それで、花泉中学校当時ですね、五、六年ぐらい前までは、1年生が農業体験をし、2年生は職場体験というような形をとっていたのですが、農業体験のほうは受け入れる農

家が、なかなか少なくなっていてやらなくなった経緯があったようです。

それで、質問としましては、この実行委員会を構成される場合、商工会議所さんとか、ジョブカフェさん等、拝見する限りでは、主に農業、一次産業の体験というよりは、三次産業、会社や法人関係を主体とした職場の方々に集まる委員会になっておりますが、場所によってはそういった農業関係等が、先ほどの指摘ですと、世の中の体験というような趣旨だということもありますと、この委員会の中に農業関係の方が入っていないかとも思うのですが、職种的にそういったところまで配慮して取り組んでいるのかどうか教えていただければと思います。

○教育長 はい、学校教育課長。

○学校教育課長 確かに、ご指摘のとおり法人の関係の方が、実行委員会のほうに入ってきた経緯がございます。

実際の体験場所につきましては、今、それに当たる資料を全て用意できませんけれども、農業であるとか、リンゴ農家さんであるとかそういうところにも体験しているようがございます。

先ほど申しましたように、5日間できないところで、例えばその牧場のようなところで体験させていただくというような声も、今のところも出ている状況でございます。

○佐藤委員 わかりました。

ありがとうございます。

○教育長 そのほかはよろしいでしょうか。

では、私から、5日間で今年度に計画している学校名について紹介してください。

○学校教育課長 一関中学校、磐井中学校、一関東中学校、萩荘中学校、巖美中学校、舞川中学校、大原中学校、興田中学校、川崎中学校でございます。

○教育長 はい、わかりました。

どちらかという、西のほうが以前から5日間実施しているところが多かったということですね。

私も、経緯は大体わかるのですが、3日、4日、5日という実態があって、これは毎回話題になっております。

3日、4日のところがどうしてもあつたりすると、もう少し短くてもいいんじゃないかというところが出てきたり、そういう議論が常にずっと抱えてきたものですから、やはり市内でやるのであれば、そこは統一してやったほうが子どもたちもその覚悟を持ってやることができるだろうと、事業所についてもジョブカフェさんの話を聞くと、事業所自体はそれほど大きな変動はく、若干減ってはいるけれども、それほど大きな変動はない。

むしろ、子どもの数の減少のほうが大きいので、事業所の部分については農協さんや

商工会議所さんからご協力を得られれば、まず何とかなると、そしてあるいは、先ほど言ったように、別日にまとまって農業体験等やることによって、日数をトータルとして確保できるだろうと、そういう見込みのもとに、次年度そういう方向でいくことに提案してありますので、そういう方向でいくのではないかなというふうに思われます。

岩手県内では、5日間やっているところはありませんので、一関が多分一番このキャリア教育について力を入れてやっている状況でありますので、そこは自信を持って進めたいなというふうに思っております。

○教育長 皆さん方から特に質問等ありませんか。

はい、伊藤委員。

○伊藤委員 質問ではないのですが、やはり、成果というのはすごく大きいなと思うのは、つい最近もそうですけど、職場体験をした子どもが、例えばですね、消防署員になっております。

消防署員の職場体験をして消防署員になっているという子どもがいました。

それから、保育士さんの体験をして保育士になった生徒が2人ぐらいいます。

これというのは、すごく重要な中学時代の体験、教育だと思うのですね。

それからもう一つは、発達障害の子どもたちが職場体験して、人と接することの大切さを勉強してくると。

この成果もすごく大きいような気がします。

だから、この教育は、この事業は非常に大切にしてほしいし、この実行委員会を是非設置していただきたいと思います。

そして、機能していただきたいと思います。

○教育長 それでは、議案第14号につきましては、採決をしたいと思います。

賛同の方は挙手願います。

満場一致で本案については、可決いたします。

○教育長 それでは次に、3番に入ります。

報告(1) 財産の管理に係る損害賠償に関する専決処分の報告について

○教育長 報告(1)、財産の管理に係る損害賠償に関する専決処分の報告について、事務局から報告願います。

教育部長。

○教育部長 それでは、お手元の資料ナンバー1をご覧くださいと思います。

こちらにつきましては、6月市議会定例会に提案を予定しているものについて、報告をするものでございます。

まだ番号等は入っておりませんので、空欄となっております。

「財産の管理に係る損害賠償に関する専決処分報告について、市長専決条例第2条第4号の規定により、別紙のとおり専決処分したので、地方自治法第180条第2項の規定によりこれを報告する。」ものであります。

予定では、令和元年年6月18日に提出する予定となっております。

詳細について、教育総務課長からご説明をいたします。

○教育総務課長 それでは詳細についてご説明いたします。

資料の2ページをご覧くださいと思います。

(説明)

○教育長 はい、それでは、ただいまの報告につきまして何かご質問ありますか。

よろしいでしょうか。

それでは以上としたいと思います。

報告(2) 行事報告及び6行事予定について

○教育長 それでは、(2)行事報告及び6月の行事予定につきまして、私のほうから行事報告をさせていただきます。

今回は、4月の26日が教育委員会定例会でありましたので、それ以降1ページですが、第6週から説明いたします。

連休明けの5月8日、公立学校退職校長会一関西地区会定期総会に、私が出席してまいりました。

西東それぞれに退職校長会がありますが、毎年ご案内いただいておりますので、行って市の教育の抱える課題等について、挨拶の中で触れさせていただいております。

同じく8日、胆江地区・一関地方副校長会の懇親会がベリーノホテルでございました。これは会場の教育委員会ということで、行って挨拶をしてきました。

これは毎年、県南教育事務所管内で行っている、復興庁の研修会の後でやるものでありまして、私の方もこの中でも挨拶をさせていただいております。

5月9日、教職員初任者研修がありました。

今年度は小学校7名、中学校6名、合計13名が配置になっておりますが、全員担任のようではありますが、例年並みの人数で、私のほうで最初の教育長講話ということで、1時間ほど話をさせていただいております。

教員の採用については、全件については増加傾向でありまして、130名ぐらい、小中で合格しております。

初任者が増えている傾向にあるのですが、講師不足というのが現状でありまして、例

えば、育児・産休補充、病気補充という場合に、教員の資格免許を持った方が非常に少ないという現状がありまして、そういった事態の場合にどう探すかということも今課題となっております。

それと、直接は関係ありませんが、お話しさせていただきました。

それから、同じ9日、一関市PTA連合会の定期総会懇親会が、千厩のサンプラザ及善でありまして、市長が総会で挨拶、懇親会で私が挨拶をさせていただきました。

PTAには力になってもらっていますので、今後もよろしく願いますという話をさせていただきますのであります。

2ページ目をお願いします。

5月の19日、今度は退職校長会一関東地区会で会合がありましたので、そこにも出席して話をさせていただいております。

一関東地区の方の退職校長会は、「ちくとうかい」と言って、竹の頭の会と書いて「竹頭会」という名称で、毎年行っているものであります。

そして第8週、今週であります。先ほど赤荻幼稚園の総合訪問、大変ありがとうございました。

行事報告については、連休も含んだので数は少ないですが、以上となります。

○教育長 それでは、行事予定について、教育総務課長。

○教育総務課長 それでは、6月の行事予定についてで説明いたします。

(説明)

○教育長 最初に、行事報告について何かご質問ありますか。

それでは行事予定について、教育委員会の定例会の日にちを確定したいと思いますが、6月25日、日にちについてはいかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長 6月25日、開始時刻ですが、今までは午後2時からが多かったのですが、1時半ぐらいのほうが終わりが早くできるのかなというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

(「賛成」の声あり)

それでは、基本的にこれからは午後1時半ということで確認をさせていただきます。

都合により時間がずれることはあると思いますが、基本線とすれば1時半ということでお願いします。

行事予定につきまして、他に何かありますか。

よろしいですか。

○教育長 それでは、休憩いたします。

午後1時52分 休憩

午後1時58分 再開

○教育長 再開いたします。

4のその他に入ります。

その他(1) 令和元年度学校教育行政の重点について（学力向上）

○教育長 (1)令和元年度学校教育行政の重点につきまして、これはシリーズでやっておりますが、今日は「学力向上」について、事務局から説明をお願いします。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 それでは、資料ナンバー5をご覧ください。

(説明)

○教育長 はい、ありがとうございました。

それでは、シリーズでやっている重点についてですが、今回は「学力向上」ということでありますが、何かご質問等ありましたなら、お願いします。

○教育長 はい、千葉委員。

○千葉委員 これまで、全国学力テスト等で、国語は、特に中学生ですが、国語はある程度健闘していて、数学が弱いというふうに認識していましたが、C R Tの結果を見ると、中学校は、数学よりも英語の方が全国比でかなり低いと。

こういうデータを今初めて見まして、この現状分析というか、なぜそうなんだろうということについて、どう分析がなされているのか、教えていただきたいと思います。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 この学年差はあるのかということがありますが、これは、平成28年度のこの英語のC R T、2年生の英語の数字ですが、これがプラス0.7でございまして、学年によって上がっているときもあるのだということも確認しておりました。

応用の部分で力がつかないのもあるんですが、いろいろな要素がありまして、家庭学習がやはり少なかったのではないかとか、単語力がそもそも少ないのではないかとか、リスニング力がそもそもないのではないかとかというふうな、全てにおいて課題はあったというふうに聞いております。

細かい分析まではないのですが、学年の差もありながら、これからも見ていきたいところであります。

具体的なこれといった、弱点というのがちょっと申し上げられないでおりますけれども、これからも指導していきたいと思います。

○千葉委員 関連で、中学1年の12月段階で全国比マイナス4.9という数字、これは4月

に入学してから12月までの中学の指導によるものか、それとも、小学校の指導が、いわゆる全国の指導の仕方に比べて、こういう結果をもたらしているのかというようなことについては、分析の中で話は何も出てないですか。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 全国のところで、このような反省が出ております。

問題分析しますと、最後まで解けない子ども、いわゆる無答の子どもがいると、最後の問題までたどり着けない子どもがいるというところで、いわゆる問題を解くスピードとか、そういうことも実は関係しているのではないかとと言われておりまして、これは県としても課題となっておりました。

岩手の子どもたちは、ゆっくり丁寧に解くのは得意だと言われており、もしかしたら、そういったところも関係しているのではないかとこのところでございます。

もう一つは、全国の問題は、必要のない情報もたくさん入って行って、その必要のない情報もある中から、必要な情報を取り出して解いていかないと解けない問題があつて、岩手県の場合だと、こういうのがあつてこれを解いて、次これを解いて、これを解いてというような指示があると、解きやすいのだけれども、そういったところを苦手としているのではないかとこの指摘もございました。

そういうところは、授業改善も全教科でやっていかないと、そういう力が付いていかないのではないかと、そんな声も来ております。

簡単などころではそういったところが、その差ではないかなと考えております。

○千葉委員 はい、わかりました。

○教育長 その他ありますでしょうか。

今のことに関連して、中学生になると、全体的にやはり全国と溝を開けられるというのは、実はどの教科も傾向とすればそういう傾向、要するに低下傾向であります、岩手県全体がそうであり、一関もそのとおりであります。

これは、全国が上がるのか、岩手が下がるのか、両方なのかわかりませんが、いずれそういう傾向があります。

英語については、実は、小学校の場合には、小学校英語が入ってきたのがつい最近でありますので、その影響もこの中には若干含まれているのではないかなというふうに思います。

ただ、英語の教科に対する意識というのはやはりまだまだなのかなと、正直言って、学力的に厳しい部分もあるのかなと思っておりました。

ただ、これは全部ペーパーテストでありますので、最近の英語は五領域、5つの領域で聴く・リスニングとか、話す・スピーキングとか、それもテストに入れろということで、

大学入試が変わってきますので、それに伴って高校の学習方法も変わっています。

変わってくることによって、全国のこの学力も今年度から変わりました。

今の中学校の3年生が、全国学力調査で、去年はなかったんですが、今年度英語を受けたのは、コンピュータ室に行って自分で実際に自分のしゃべったことを録音し、それを送って採点してもらうというやり方であります。

だから、学力の考え方自体がペーパーだけではないという、ペーパーはあくまで読んで書くということですから、読解するということと、書く・ライティングということで、5つの領域のうち2つしかないという考え方ですので、この英語の学力の考え方も大分変化が出てきているなというふうには思っております。

今後、推移は見ていきたいなというふうには思っております。

○教育長 何かほかに質問あれば、よろしくをお願いします。

○教育長 算数・数学は、一定の効果はここ4、5年、同じテーマで進んできて、算数・数学については、明確な上昇傾向が見られますが、逆に他の教科になかなか浸透してないという、そういう実態はあるということになると思います。

○教育長 それでは、きょうの重点項目の説明は以上としたいというふうに思います。

それでは次に、その他の(2)についてであります。

その他(2) 第9回総合教育会議の日程について

○教育長 その他の(2)、第9回総合教育会議の日程につきまして、事務局から教育総務課長をお願いします。

○教育総務課長 はい。

資料にしてございませんでしたが、第9回総合教育会議の日程についてでございます。

(説明)

○教育長 それでは、6月6日ではありますが、資料はできた段階で送りますか。

○教育総務課長 はい、委員さん方に対しその予定であります。

○教育長 今回は、2人の方に最初ゲストスピーカーということで喋ってもらいますが、その後も話し合いに入ってもらおうというやり方を考えたいと思っておりました。

市長と教育委員5人のいつも同じメンバーですと、ある程度言うことがだんだん限られてきていますので、そういう意味で、外からも入っていただいたほうが活性化するのかなと思いますので、今回は、そういうことで若い方々であります。

山目小のPTA会長で市P連の会長をなさっている方と、もう一人、本寺の鶏舞をやられている方でありますので、全然違った方面からの話になると思いますが、そういう方を入れながら、今後の地域と学校のあり方について考えていきたいというテーマであります。

す。

ちなみに、前にちょっとコミュニティ・スクールのお話をしましたが、それについても若干触れさせていただければなと思っていますし、このあとで連絡させていただきますが、7月に東北6県の教育委員研修会が郡山であります。

その2日目に、コミュニティ・スクールの実践について視察したいというふうに考えておりましたので、そちらは総合教育会議の後なので活かさせませんけれども、いずれ、そういった地域と学校のあり方についての部分ももう少し話題としていきたいと思っておりますので、いろいろと考えていただければいいかなというふうに思います。

非常にテーマが大きいし、深い課題が抱えられております。

ちょっと長くなって申しわけないのですが、今、子どもの数の減少がものすごく、今年入学した小学1年生は、791人で、遂に800人を切りました。

今の中学校3年生で高校1年生になった子どもたちが1,027名で、1,027名が抜けて小学校に入ってきたのが791人、更にゼロ歳児が601名であります。

ですから、どんどん減る中で、今後、学校と地域とどのようにしていけばいいのか、教育委員会もそうですけども、市長にとっても非常に大きな課題でありますので、その辺の話題等いろんな視点から話題としていただければいいのではないかなというふうに思っております。

○教育長 よろしいですか。

資料を送りますので、それに沿って目を通していただき、当日どんどん話をさせていただきます。

それでは(2)は以上といたします。

その他

○教育長 その他ですが、資料はありませんが、事務局から説明させます。

それでは、これにつきまして、教育部長。

○教育部長 お手元に配付いたしました資料に基づき、東山小学校校舎の整備事業について、ご説明、報告いたしたいと思っております

(説明)

○教育長 これにつきましては、ご質問ありますか。

はい、千葉委員。

○千葉委員 6,600万円補正ということですが、これは業者の責任でやらせるということではないのですか。

○教育長 教育部長。

○**教育部長** 昭和48年頃の建築ということで、その時点で、その当時の東山町において、工事施工に対するの進捗管理ですとか、それから完了検査等の必要手続については、実際に行っているというふうな事ですし、合併して一関市がそういう部分も含めて継承しておりますので、あくまでもその時点で、実際その時点で発見していたかどうかということはあるかと思いますが、先ほど申し上げましたとおり、施工不良には間違いはないわけですが、強度ですとか、これまで数十年間、児童が生活してくる上でも問題がなかった部分もありますので、その部分については、業者にというふうなことは現時点では考えておりません。

○**千葉委員** わかりました。

○**教育長** はい、そのほかありませんでしょうか。

○**教育長** 私からですが、下のところに八箇所、十二箇所ということで、（H29は）長寿命化改修は可能かどうかというための検査、（H30は）実際にこれから設計するときかどうかというときに調べたのではないかと思うのですが、ここでは見つかってなかったということでしょうか。

○**教育長** 教育部長。

○**教育部長** 今お話がありましたとおり、29年4月30日については、躯体の健全性の調査で、長寿命化改修の対象としてどうかという部分の調査ですし、それから、下は工事業者選定により設計業者が決まり、設計していく上でいろいろ調査したという内容ですが、通常は、コア抜き調査というのは、八箇所となっておりますが、想定したところの全部を抜くわけではなく、校舎全体の中から八箇所というようなことでありますので、それについては、特にこういうような問題はなかったということです。

通常ですと、その八箇所等で終わりですが、更に（30年3月17日）十二箇所、同じような調査をしておりますが、なかったということです。やはりその表面的な部分と、数は多いのですが、木片とか小さい部分も含めて千百五十四箇所ということですが、コア抜き調査では、見つからなかったというか、その様な対象のものはなかったというようなことでございます。

○**教育長** そうすると、長寿命化改修のときに、こういう問題は今後出てくる可能性、例えば今後同じ場所に校舎を建て替えるときには、市では長寿命化をやるという、これはコスト的にも、使えるものは使うという考え方から、そういう形でやるのですが、今後も将来にこういうことはないとは限らないということですよ。

○**教育部長** 教育長からお話ありましたとおり、その場所に建て替えというような例がこれまでは基本的に新校舎、統合絡み等ありまして、唯一、山目小学校が震災で対応はできないというときに建て替えしたケースはありますが、このように仕上げを外して、こうい

う状況になったのを確認したというようなことはございませんでしたので、今回初めて長寿命化改修ということで、こういうことがわかったわけですが、当然、長寿命化改修が可能な施設というようなものは、コア抜き等をし、大丈夫だという建物についてやりますので、強度的には大丈夫ですが、実際に表面を外した時に程度の差異はあるかもしれませんが、ある程度、それから数十年また長寿命化改修をして使用していくというようなことで、適度な補修はその都度発生するというような認識ではございます。

○教育長 はい、わかりました。

その他ありますでしょうか。

非常にないにこしたことはなかったんですが、残念ながら、そういうのがわかったということで、わかったからにはきちっと補修して、今後長寿命化の校舎を使う先に問題がないようにしたいと、そういう中身であります。

よろしいでしょうか。

では、報告とさせていただきます。

○教育長 以上、4番その他は以上ですが、皆さん方から若しくは事務局の方からは特にありませんか。

(「なし」の声あり)

○教育長 それでは、以上をもちまして、第193回一関市教育委員会定例会を終了いたします。